ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 332
November
2020

トピックス

メンバー国との協力推進

¶アジア防災会議2020の開催

¶GeoThingsからのレポート

国際会議への参加

国際災害チャーター（IDC）のボードミーティング

お知らせ

オンライン津波セミナー開催

Asian Disaster Reduction Center
アジア防災センター

〒651－0073
神戸市中央区脇浜海岸通
1-5-2　東館5F

Tel: 078-262-5540
Fax: 078-262-5546
editor@adrc.asia
http://www.adrc.asia

© ADRC 2020

●メンバー国との協力推進

アジア防災会議2020の開催

2020年10月20日から22日にかけ、アジア防災センター（ADRC）にとって初めてのオンラインアジア防災会議（ACDR2020）が開催されました。本会議はADRCメンバー国、関係機関が毎年一堂に会し、仙台防災枠組や持続可能な開発目標等の実施に向けた、アジア地域の先進的な防災情報や取り組みを共有し、さらにADRCのネットワーク強化を図るものです。本年はADRCと日本政府の共催により、メンバー国22カ国に加え、防災関係機関、研究機関、企業、大学等から合計244人がオンラインで参加しました。本年の会議は開会式、特別発表、基調講演に続き、２つのテーマ別セッションで構成されました。

10月20日：開会式、特別発表

開会挨拶ではまず小此木八郎防災担当大臣から、「公助」「自助」「共助」の重要性、縦割りを排した政府一丸の取り組み、新型コロナ禍での日本の災害対応の経験の共有、ADRCの客員研究員プログラムと官民連携プログラムについて紹介がありました。

続いて今年のACDRホスト予定国だったタジキスタンのルスタム・マザルゾダ国家非常事態・民間防衛委員会議長から、近い将来のACDRホスト開催への希望とともに、タジキスタンで発生する多くの災害に対し、パンデミック対応を考慮した新しい形の災害対応と防災戦略についての議論の必要性が述べられました。

最後にADRC濱田政則センター長から、オンライン開催の経緯と本会議のテーマが紹介されました。

特別発表では内閣府の中尾晃史参事官が、コロナ禍での災害対応状況と課題、「気候危機時代の『気候変動×防災』戦略」の取組みについて紹介しました。また、危機をチャンスとした新たな取り組みや見直しについても言及し、課題を多角的に捉えることのできる機会と発表しました。

基調講演ではまず、国連開発計画バンコク地域事務所サニー・ラモス・ヘギロス上級アドバイザーがアジア太平洋地域において新型コロナが多方面に影響を与えていること、そこから復旧するための10個の教訓や優良事例を発表しました。そして社会経済的復興のための提案として、国際・地域協力、ガバナンス、社会的保護、グリーンエコノミー、デジタル・ディスラプション（創造的破壊）とイノベーション、複数のリスクを減らすためのファンディングを提言し、最後に「未来は我々が思うほど悪くない」とまとめました。

続き

次に高知工科大学磯部雅彦学長が「海岸の二段防災」と題し、東日本大震災の経験に基づいて、巨大津波の性質を知ることにより、より良い対策ができると発表しました。レベル２と呼ばれる最大クラスの津波に対しては、ある程度の被害を許容し避難により生命を守るとともに、最低限の社会経済機能を維持することを目標とすること、レベル１と呼ばれる数十年から百数十年に一度の津波に対しては、堤防や護岸によって浸水を防ぎ生活や経済まで守ることを目標とすることです。アジア各国で多発する高潮被害に対しても、同様に二段防災システムの構築と運用により生命や財産を守ることができるとしました。

時差の関係でビデオ講演となったハーバードケネディスクールのアーノルド・M・ホーウィット教授が同時発生する危機への対応について発表しました。災害の激甚化、頻発化、同時化に対してこれまで経験したことのある危機への対応に加え、多重的な危機への対応という２つの運用モードを持つ危機管理チームの必要性を提唱しました。

最後に京都大学・ランド大学・オックスフォードブルックス大学のイアン・ロバート・デイビス客員教授が「強靭化するハザードから、リスク削減と気候変動に立ち向かう」として６カ国８名の専門家と意見交換して得た12の対策案を発表しました。そして効果的な対策には、完全性と一貫性、勇気、先見性、長期的な視野、計画、謙虚さ、教育、知識、権限、リソース、ローカルなアプローチ、チームワーク、創造性、代替戦略、信念といったものが必要ではないかとまとめました。

次号の誌面では、セッション１とセッション２の様子をお伝えいたします。

10月20日：基調講演

GeoThingsからのレポート

今回は、ACDR2020のホームページに寄稿されたアブストラクトの中から、テーマ２の「新しい日常における災害リスク管理の課題」に関するGeoThingsのレポートの抜粋を紹介します。

******

GeoThings

「COVID-19の世界的流行下における、携帯電話及びウェブアプリケーションの利用」

この危機の初期には、多くの問題が持ち上がりました。どのように物資を供給するのか、どのように適切に人的接触を追跡するか等は、これらのうちの一つです。

2020年の初めには、医療マスクの急激な消費ニーズの上昇により、政府は人々のID提示による厳しい購入制限を行い、事前登録による配布を行わざるを得ませんでした。このような時こそPPP（官民連携）が重要でした。

多くの開発者は、マスクの在庫に関するタイムリーな情報を提供するために、政府と協力しました。GeoThingsが開発したマスクマップは、政府が提供したデータが不十分で、情報が古くなった際に、人々に適切な情報を提供し、情報交換を行う手助けを行いました。UIは、誰にでも利用できる簡単なもので、ユーザーに最寄りの薬局や現在の在庫状況に関する基本的な情報を提供しました。人気のメッセージツール（LINE）に自動会話プログラム（BOT）組込ができるようになり、人々が携帯のアプリにすでに馴染んでいること、日常的に利用していることから、幅広い範囲で利用してもらうことができました。

続き

その他に、ICTは、接触情報の収集においてもその力を発揮しました。多くの企業、政府関連事務所等は人の動きを追跡し、最近の移動履歴を収集するために、訪問者に対し紙のフォームに記入するようお願いしています。これに対するGeoThingsの代替案としては、希望のメッセージツールのBOTを用いて基本的質問事項について自動対話型で収集するもので、これにより電話番号の確認ができるというものです。

******

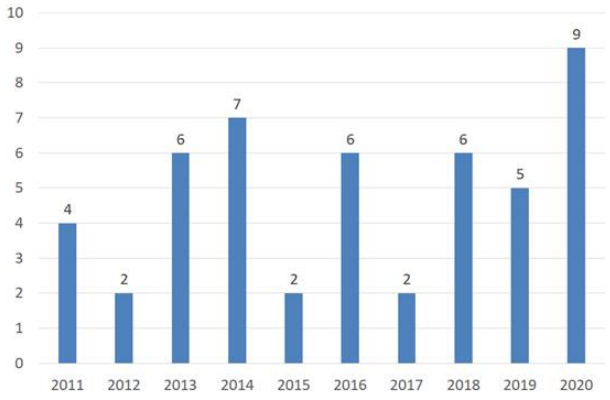
GeoThingsは、ICTツールやプラットフォームを開発する台湾ベースのソフトウェア企業で、防災分野におけるツールも開発しています。本レポートの全文は、ACDR2020のホームページ（https://acdr.adrc.asia/）で公開されています。

●国際会議への参加

国際災害チャーター（IDC）のボードミーティング

2020年11月11日、アジア防災センターは国際災害チャーター（IDC）のボードミーティングに参加しました。この会議はオンラインシステムによって開催され、IDCのメンバーから多くの宇宙関係機関が参加しました。

ADRCはこのIDCの枠組みの、地域支援事務所として役割を果たしています。例えば、センチネルアジアの活動において災害時の要請を受けた際、リクエスターの希望に応じてIDCへの展開をしています。センチネルアジアはアジア各国で発生した災害時における支援活動ですが、IDCは全世界を活動の対象としています。2011年の活動以降、これまで49件のIDC展開を実施してきました。



IDCへの展開数の変化（2011～2020年）(N=49)
＊2020年11月5日現在

また本会議においては、ADRCから「より強固なネットワークの構築」を提案しました。ADRCとしましては、今後、宇宙機関や防災担当機関をつなぐ橋渡し役として、積極的な活動を行っていきます。

●お知らせ

オンライン津波セミナー開催

アジア防災センターは、2020年11月24日(火)に第１回オンライン津波セミナーを開催しました。東北大学災害科学研究所所長今村文彦教授の特別講演に続き、サッパシー・アナワット准教授より講演が行われました。詳細につきましては、次号のハイライトでお知らせいたします。
第２回津波セミナーは、2020年12月22日(火)に開催いたします。

詳細、登録につきましてはウェブサイト(https://bit.ly/ADRCTsunamiSeminar)をご覧ください。皆様のご参加をお待ちしております。

問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は
editor@adrc.asia までEメールをお寄せください。